

Tako
Machi

多古町
観光・交流
アクションプラン

ライビング
-Living Tako-

“共創”による
多彩な多古時間の過ごし方と
ライブ感のあるライフスタイルが
実現する観光・交流

概要版

令和3年3月



Ⅰ プラン策定の背景と位置づけ

プラン策定の背景

- ◆成田空港の更なる機能強化+圏央道の整備⇒多古町の地域活力向上のチャンス
- ◆観光を成長戦略・地方創生の軸とする取組の展開+働き方改革の展開
- ◆新型コロナウイルスによる“新たな生活様式・観光行動”への移行
- ◆これまでの取組成果の継承と多古町独自の新しい観光形態の展開

多古町の“光”となる6つの特徴と展開の可能性

- ① 成田空港からの立地条件に恵まれていること
- ② 都市近郊で貴重かつ希少な環境を有していること
- ③ 成田空港からのバス路線(公共交通機関)が確立されていること
- ④ 道の駅多古が地域集客の中核施設となっていること
- ⑤ 一般的な観光産業はない一方で、志民活動等が展開しつつあること
- ⑥ 地域外からの移住人口も増加傾向にあること

新たな観光への取組

- 成田空港の更なる機能強化とその対応⇒客観性をもって時宜を捉える
- 地域プロモーションの成果としての移住・定住促進
- 志民協働事業の定着と新たな展開
- 頻発する災害に備えておくこと

本町の観光や交流を振興するための総合的な方向性を示す計画であり、本町の観光や交流の推進を通して、関係人口や定住人口も含めたまちの活性化を目指し、志民や事業者、行政が一体となって取り組んでいくための戦略とともに、具体的な行動(アクション)を示す計画とします。

《計画期間》

本プランの計画期間は、令和3年度から令和11年度の9年間とします。

そのうち、令和3年度～令和6年度を前期計画(4年間)、令和7年度～令和11年度を後期計画(5年間)として構成します。

2 プランの目標とする姿と進め方

《目標とする姿》

ライビング

Living Tako

“共創”による多彩な多古時間の過ごし方と

ライブ感のあるライフスタイルが実現する観光・交流

本プランで目標とする観光・交流の姿は、従来型の観光振興のように観光客の来訪を増やし、観光消費のみを増加させるというのではなく、地域の特徴を活かした観光・交流プログラムなどの事業を通して、自分好みの充実した時間を過ごし、多古町のファンとなることで地域内外から、まちに関わったりする関係人口・交流人口を増やし、その先の移住・定住につなげていくことを最終的な目標とします。

本町を選択して訪れる人や移住・定住する人のみならず、迎え入れる地域住民にとっても、交流を通じライブ感をもって、多古時間の過ごし方とライフスタイルの実現を“^{ライビング} Living Tako”というキャッチコピーに込めています。

《段階的な目標と展開 ～ステップアップする多古の観光・交流～》

最終的な目標とする姿の実現に向けて、段階的に取り組んでいきます。

《 第ⅢSTEP 》

「多古ライフ」を選択してもらえる新住民の獲得

《 第ⅡSTEP 》

多彩な観光・交流プログラムの展開による関係人口と交流人口の獲得

《 第ⅠSTEP 》

地域個性の再発見・再認識・再構築と地域プロモーションの展開

3 目標とする姿の実現に向けた観光・交流の取組方策

〔基本戦略①〕

人の気を惹く観光・交流事業

～地域の総合的な情報発信・プロモーション～

本町の魅力や誇るべき地域資源を知ってもらうため、観光・交流はもちろん、二地域居住や移住・定住につながる関連情報を集約するとともに、効果的に発信し、継続的にプロモーションしていきます。

1. 効果的・継続的なプロモーションの展開

本町の多様な地域資源や魅力の認知度を高め、来訪や交流を促すため、様々なツールを活用して効果的に情報発信します。

ホームページやSNSを活用した情報発信（写真や動画等を主とした情報発信）／
オンラインモニターツアーの実施 等

2. 情報の一元化と効果的・継続的な情報発信

本町の総合的な情報を集約し、一元化することで、来訪者や興味のある人にわかりやすく、かつ効果的な情報の発信に努めます。

道の駅多古における観光案内・情報発信機能の強化／
二地域居住を含めた観光・交流に関する総合情報プラットフォームの構築 等



〔基本戦略②〕

メリハリのある観光・交流事業 ～ポテンシャルを活かした観光・交流～

本町の立地環境や地域資源など様々なポテンシャルを活かし、インバウンドを含めた国内外の観光・交流、さらには二地域居住や移住・定住などに対応した取組を展開していきます。

1. 観光マーケティングの継続的調査と動向把握

本町の観光・交流の施策等を戦略的に取り組むため、観光マーケティング調査を継続的に実施していきます。

定期的な観光統計の調査／SNSによる観光・交流に関する投稿数等の調査・分析 等

2. 成田空港の更なる機能強化・インバウンド需要に対応した観光・交流の展開

訪日外国人観光客のニーズ等に応じた自然や歴史・文化、暮らしの体験プログラムなどの観光・交流の取組を展開していきます。

訪日外国人観光客向けの体験型・交流型のプログラムづくりと情報の発信／
訪日外国人観光客の受入やおもてなしの環境づくり 等



3. 移住・定住や二地域居住需要に対応した観光・交流の展開

移住・定住や二地域居住を受け入れるため、自然や農業を活かした田舎暮らしの体験プログラムなどを展開します。また、移住・定住や二地域居住の需要に対応した支援や取組を検討していきます。

移住オンラインモニターツアーの実施／
観光版の空き店舗活用の補助金制度の創設検討 等



4. 観光・交流の拠点づくり

道の駅多古をこれからも集客の中核施設として位置付け、情報発信や特産品販売などの機能を高めていきます。空き公共施設の利活用を含め、観光・交流の拠点づくり及び機能強化を図っていきます。

道の駅多古での情報発信や特産品販売の充実／
たこらぼを活用した観光・交流拠点づくりと機能充実 等



本町の多くの地域資源を活用して多彩な交流・体験プログラムを創出し、誘客力を高めます。また、農産物を活かした特産品開発を進め、ブランディングによる高付加価値化を図ります。

1. 「農・食」の交流・体験プログラムづくり

様々な農産物や食の地域資源を活用した農業体験プログラムの充実、リモート収穫体験などオンラインでの新たな取組の試行を展開していきます。

田植えや稲刈り、やまと芋やさつま芋の農業体験／
農家によるリモート収穫体験とPRの試行／畑のレストランの実施／
地元野菜やフルーツが食べられるカフェ事業の検討 等

2. 「歴史・文化」の交流・体験プログラムづくり

本町の有する歴史ある寺社や史跡・遺跡などの地域資源を活かして、見学ツアーや講座などの体験型・交流型のプログラムづくりを進めます。

既存の歴史講座を活用した歴史文化体験ツアー／
城郭の歴史や多古光湿原を活用した見学・体験ツアー 等

3. 「祭り・風物詩」の交流・体験プログラムづくり

「ふるさと多古町あじさい祭り」や「いきいきフェスタTAKO」などの祭りを活かして、交流・体験型のプログラムの充実や新たな展開などを進めます。

既存イベントを核とした新たな集客事業の企画・検討／
来訪者参加型の祭りや交流プログラムの検討 等



4. 「暮らし」につながる交流・体験プログラムづくり

町民や活動団体、商店等と連携して、本町での暮らしに関わる地域資源を活かした交流や体験のプログラムづくりを進めていきます。

和菓子づくり体験や商店街での食べ歩きツアーの実施／
お月見どろぼうの継続展開／まちなかでのガーデニングの展開 等

5. 「農」の高付加価値化・特産品開発

多古米ややまと芋などの本町が誇る農産物を活用し、特産品開発を進めるとともに、農あるまちとして「農」の高付加価値化を図ります。

やまと芋チップスやスイーツなどのお土産品の開発と充実／
やまと芋を活用した商品開発とやまと芋のPR(やまと芋王国など)／
多古米や多古の野菜、フルーツを活用したケーキやカフェメニューの研究 等

6. 多彩な交流・体験プログラムラインナップの充実

「農」や「食」、「歴史」や「祭り」、さらには「暮らし」に関わる交流や体験のプログラムづくりを通じて、多古町観光での多彩な交流・体験プログラムのラインナップの充実を図ります。

多様な交流・体験プログラムを総合的に発信する“多古観光・交流カタログ”の作成／
人にフォーカスした多古版「旅市」のラインナップづくり／
多彩な交流・体験プログラムの充実 等



観光・交流に関わる志民協働による新しい取組を活発化させるとともに、住民自治を含めた“観光エリアマネジメント”の展開を図ります。

1. 志民協働による新しい取組に対する支援

移住・定住や二地域居住を促進するための新たな支援制度等を検討していきます。

志民協働による観光・交流に関わる取組促進のための支援制度の検討 等



2. 観光・交流を通じた住民自治の展開

住民自治の観点も踏まえ、地域や町全体での主体的な観光・交流を進める“観光エリアマネジメント”を展開します。

住民自治による観光・交流マネジメントに対する町民の意識向上／観光エリアマネジメントの手法の具体化検討 等



3. 志民から広げる観光・交流に関わる仲間づくり

町内外から本町の観光・交流を支えてくれるファンやリピーター、二地域居住者などの仲間を増やす取組を進めます。

多古高校との連携（イベントや体験プログラムへの参画 等）／オンラインを活用したバーチャルな田舎体験の発信 等



4. 子どもの観光・交流まちづくり教育の充実

子どもたちの地域への愛着や誇りを醸成するため、町内の子どもに対する観光・交流まちづくり教育やふるさと教育の充実を図ります。

小学校等と連携した総合学習での観光教育の機会創出／子ども目線での観光・交流の発信の取組 等

〔基本戦略⑤〕

実行力のある観光・交流事業

～安心・安全なまちづくりと着実・確実な事業推進～

観光危機管理の取組や観光・交流の推進体制づくりを進めます。

1. 安全・安心な観光・交流地域づくり

災害時における意識醸成や観光危機管理体制の整備を図るとともに、正確な災害情報の提供や災害時の観光客対応の方法の構築を検討します。

災害情報の提供及び災害時の観光客への対応方策の検討／
訪日外国人観光客向けの多言語化による災害対応等の情報発信 等

2. ユニバーサルな観光推進

本町に訪れた人が誰でもいつでも快適に観光・交流を楽しむことができるよう、ユニバーサルな観光環境を整備します。

観光拠点におけるWi-Fi環境の整備／
道の駅多古のバリアフリー化／
訪日外国人観光客向けの多言語化による地域情報や災害情報の発信 等 等



3. 観光・交流受入れ環境整備

本町への来訪者が快適に観光・交流できる受入れ環境として、わかりやすい観光案内サインの充実とおもてなしを感じる環境づくりを推進します。

観光案内サインの整備、多言語化／
車内フリーWi-Fiの整備／おもてなしのあるボランティアガイドの育成 等



4. 「多古観光・交流」の推進機能・体制づくり

多様な主体が関わり連携しながら「多古観光・交流」の取組を展開していくための中核的な推進組織づくりを検討します。

観光・交流の中核的な推進組織の設立検討／
観光・交流を担う人材の発掘と育成 等

4 リーディングプロジェクトの推進

本町の観光・交流を効果的・効率的、かつ着実に推進・展開していくため、段階的な目標の第 I STEPが中心となる前期計画の中で、戦略的に先導していく「リーディングプロジェクト」を定めます。

● 「多古ライフスタイル」・「多古時間」の過ごし方研究プロジェクト

インバウンドも含めた観光マーケティング調査を実施し、来訪者に応じた「多古ライフスタイル」や「多古時間」の過ごし方を研究し、ターゲットに応じたスタイルでの本町での楽しみ方を訴求していきます。

● オーダーメイド型の多彩な観光・交流プログラムづくりプロジェクト

地域資源の磨き上げと編集による観光・交流コンテンツ、地域資源を活用した体験プログラムなどの検討を通して、来訪者のニーズに対応したオーダーメイド型の観光・交流プログラムを創出します。

● 観光マーケティングに基づく特産品開発・販売強化による地域商社化プロジェクト

本町の優れた農産物やサービスを町のブランドとして認知度を高め、国内外へ売り込むため、多古米ややまと芋などを活かした特産品や加工品などの商品化とブランディングを検討します。

● リーディングプロジェクトの推進を通じた人財育成事業の展開・仲間づくりプロジェクト

多様な主体が持つ得意分野や能力を活かした連携を図ることで、観光・交流に関わる人財を育成するとともに、ゆるやかなネットワーク型の推進体制を構築します。

● 「多古観光・交流」推進組織の設立プロジェクト

本町の観光・交流を先導しながら牽引する中核的推進組織の組成に向けた研究や組織づくりの検討を行います。

5 観光・交流の推進に向けて

本町の目標とする姿に向けた基本戦略や施策の取組、リーディングプロジェクトの展開など、観光・交流の推進に向けて、以下の考え方をもとに展開していきます。

◆ これまでの観光とこれからの観光

本町のこれからの観光・交流の推進においては、「観光」のみならず「交流」や「連携」を大切なキーワードとして、移住・定住促進に関するこれまでの取組を土台としながら、二地域居住や移住・定住の視点での展開を図っていきます。

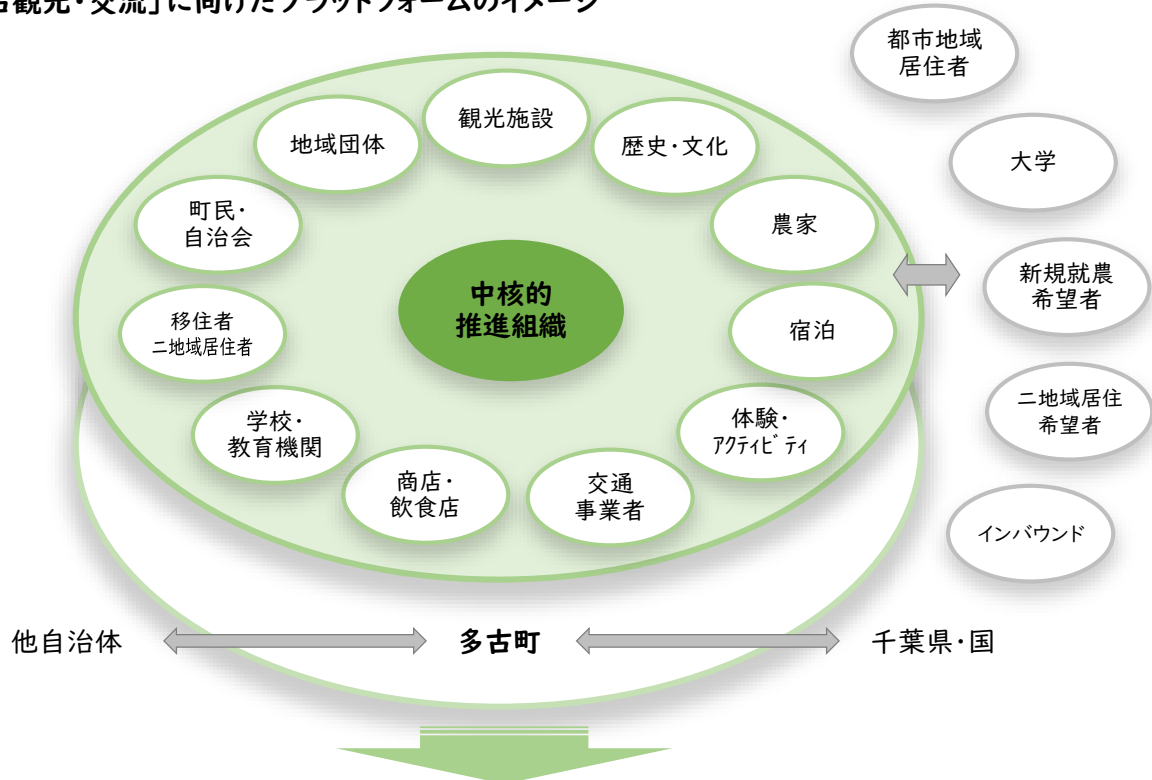
また、住民自治の推進にもつながる“観光エリアマネジメント”の考え方に基づき、多様な主体による観光・交流地域づくりを進めていきます。

◆ 「多古観光・交流」に向けたプラットフォームづくり

観光・交流に関連する様々な団体や組織が、分野・業種横断的に連携しながら参画できる仕組みとして、中核的推進組織を核としたプラットフォームづくりを進めていきます。

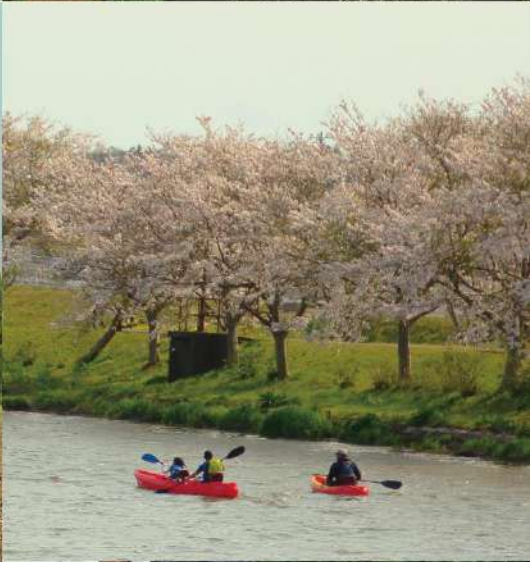
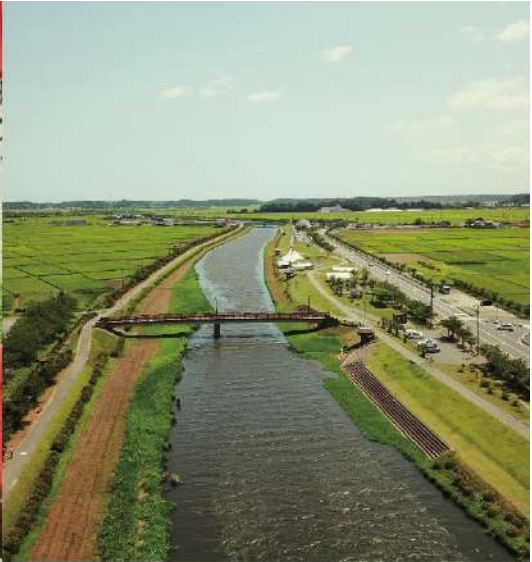
このようなプラットフォームを通じて、インバウンドを含む観光や交流の推進はもちろん、二地域居住や移住・定住も視野に入れた総合的なプロモーションや活性化の取組を展開していきます。

■ 「多古観光・交流」に向けたプラットフォームのイメージ



中核的推進組織を中心とした「多古観光・交流」のプラットフォームづくり

- 多古町の多様な主体が分野・業種横断的に連携しながら参画できる仕組み
- 多古町の総合的なプロモーションや活性化の取組の展開



多古町観光・交流アクションプラン
＜概要版＞



発行年月：令和3年3月
発行：多古町
企画編集：多古町産業経済課
〒289-2292
千葉県香取郡多古町多古584番地
電話 0479-76-5404
FAX 0479-76-7144

